

カナグリフロジンで糖尿病の心血管リスク低下

カナグリフロジンは、糖尿病の心血管死または心不全による入院のリスクを低下させることが示され、Circulation 誌に掲載されました。



解析の結果、患者全体で心血管死または心不全による入院のリスクは、プラセボよりもカナグリフロジンの方が有意に低い結果となりました（カナグリフロジン群：16.3 例/1000 患者・年、プラセボ群 20.8 例/1000 患者・年、ハザード比 [HR] : 0.78）。

